

- 農場管理を“見える化”し、食の安全を確保する最新手法 GAP -

< 特別賞（2014 年 GAP 普及大賞） >

高校生による生産・加工・販売を通じた幅広い活動を後押しする
高度な GAP への取り組みが受賞しました

日本 GAP 協会（理事長：木内博一）は、7 月 3 日に GAP 普及大賞の選考委員会を開催し、山形県立上山明新館高校の取り組みを含む 3 つの GAP 普及の優良事例を表彰することを決定しましたので、ご報告致します。

■ 特別賞受賞者：山形県立上山明新館高等学校（山形県）

農業高校の教育の中で GAP を扱うことが求められる中、全国の高校に先駆けて本格的な GAP 教育を行い、高校付属の農場で JGAP 認証を取得する経験や、加工・販売など幅広い活動を生徒に体験させ、次世代の農業者の育成と GAP を組み合わせた教育が高く評価されました。

高等学校の学習指導要領解説「農業編」で GAP の学習が求められ、全国の農業高校などで推進されているところですが、山形県立上山明新館高等学校の食料生産科では、平成 22 年 11 月に高校の中では早い段階で本格的な第 3 者認証（外部の専門審査機関から審査・認証を受ける）の仕組みを持つ JGAP 認証を取得しています。対象は、「ほおずき（食用）」、「べにばな」、「いちご」の 3 品目です。

学校の農場において JGAP に基づく生産工程管理の基本を学ぶ一方で、生産物の加工食品の開発・商品化・販売まで高校生が主体となって取り組んでいます。さらには地元での講習会や研究発表会、各種のイベント、販売活動等を行う中で GAP について地域住民や食品業者、消費者に向けて広く情報発信をしています。また、GAP を理解し身に着けた卒業生が農業分野や食品分野に進んでいくことにより、GAP 普及の広がりも期待されることです。

加えて学生が JGAP 指導員資格の取得にもチャレンジするなど、JGAP を核にした多様な取り組みは、高校生の学習面の効果のみならず、GAP の普及に大きな役割を果たしているとして、高く評価されました。

GAP 普及大賞は、今年一年間で最も GAP の普及に貢献した取り組み事例を表彰するものです。

2014 年 GAP 普及大賞の選考委員は次の通り。

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

迫田登稔（農研機構 中央農研センター 上席研究員）

----- 特定非営利活動法人（NPO 法人）日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX: 03-5215-1113

NEWS RELEASE

特別賞となった山形県立上山明新館高等学校の取り組みに加え、下記の 2 事例はともに GAP 普及大賞を受賞しました。いずれも優劣付けがたい GAP 普及の優良事例です。

- GAP 普及大賞 -

■ 国内随一のじゅんさい産地において GAP による高品質化を目指す取り組み

<受賞者> 三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（秋田県）

- GAP 普及大賞 -

■ 魚沼コシヒカリの産地における JA と行政が連携した GAP 普及の取り組み

<受賞者> JA 北魚沼 GAP 部会（新潟県）

以上、3 受賞事例につきまして、下記のシンポジウム内で表彰式と受賞者による記念講演が行われます。ぜひご来場ください。

■ シンポジウム「GAP Japan 2014」

日時：2014 年 7 月 31 日（木）13 時から 17 時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生 1-1-1）

関連ホームページ：http://jgap.jp/LB_06/index.html

問合せ先：荻野（おぎの）TEL 03-5215-1112 FAX 03-5215-1113 E-mail: info@jgap.jp

（取材を希望される場合は、下記を記入の上、FAX または E-mail で送付ください。）

御社名 _____ 部署名 _____ 御名前 _____

住所 _____ 電話番号 _____

----- 特定非営利活動法人（NPO 法人）日本 GAP 協会 -----

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 3-29 日本農業研究所 4 階

TEL: 03-5215-1112 / FAX: 03-5215-1113

GAP Japan 2014

ー日本のGAPの今が分かるー

開催概要

主催：日本GAP協会

日時：2014年7月31日（木）13時から17時

場所：東京大学 弥生講堂（東京都文京区弥生1-1-1 東京大学農学部内）

後援：農林水産省、日本農業普及学会、日本フードシステム学会、全国農業会議所、世界緑茶協会、全国茶生産団体連合会、全国農業改良普及支援協会、全国肥料商連合会、日本農業法人協会、日本プロ農業総合支援機構、日本料理アカデミー、日本政策金融公庫、野村アグリプランニング&アドバイザー

協賛：アグリフューチャー・ジャパン、イーサポート・リンク、ケーアイ・フレッシュアクセス、住友化学、つくば分析センター、日本食農連携機構、農業技術通信社、バイエル クロップサイエンス

参加申込み：日本GAP協会ホームページから

プログラム

オープニング 「JGAPの今とこれから」 日本GAP協会 理事会

基調講演 「地理的表示保護制度とGAP」

地理的表示保護制度とは、特定の地域で、固有の製造方法・生産方法で生産され、品質などで特徴を持つ食品・農林水産物の名称を行政に登録する制度であり、2014年6月に法案成立した新しい制度です。

この制度では、製品の社会的な評判や歴史などが考慮される一方、製品ごとに「地域×生産の方法（品種や管理基準など）×品質」が定義され、それを指導・検査する活動も求められます。

地理的表示保護制度は単なる商標や表示の話だけではなく、産品の特徴や品質の高さを裏付ける管理体制が求められることからGAPと関連があります。

講演1 「日本の地理的表示保護制度」 農林水産省 食料産業局 新事業創出課長 坂 勝弘

講演2 「EUの地理的表示保護制度」 駐日欧州連合代表部 通商部 調査役 中曾根 佐織

話題提供 「GFSIが農業界とGAPに与える影響」 日本GAP協会 専務理事 武田泰明

GFSI (Global Food Safety Initiative) は、グローバルに展開する70か国400社以上の小売業・食品メーカーで構成されるThe Consumer Goods Forumの下で設立された組織です。GFSIから承認を受けた認証制度は「GFSI 承認スキーム」と呼ばれ、グローバルに通用する食品安全の国際規格として世界中で利用されることになります。

第4回GAP普及大賞 表彰式

GAP普及大賞とは、「最もGAP普及に貢献した取り組み事例を表彰するもの」です。

第4回GAP普及大賞 受賞事例 / 受賞者

GAP普及大賞

■魚沼コシヒカリの産地におけるJAと行政が連携したGAP普及の取り組み
JA北魚沼GAP部会（新潟県）

■国内随一のじゅんさい産地においてGAPによる高品質化を目指す取り組み
三種町森岳じゅんさいの里活性化協議会（秋田県）

特別賞

■高校生による生産・加工・販売を通じた幅広い活動を後押しする高度なGAPへの取り組み
山形県立上山明新館高等学校（山形県）

選考委員

中嶋康博（東京大学大学院農学生命科学研究科 教授）

岩元明久（日本農業普及学会 常任理事）

迫田登稔（（独）農研機構 中央農研センター 上席研究員）



日本農業の応援団

JGAP

特定非営利活動法人（NPO法人）日本GAP協会

東京都千代田区紀尾井町3番29号 日本農業研究所ビル4階

TEL：03-5215-1112 FAX：03-5215-1113 <http://jgap.jp>